

# とよなか まちづくり 手帖

平成30年(2018年)  
10月発行  
第5号



まちの災害時の集合場所  
山門前広場  
(京都市北区・衣笠学区)

## INDEX

- それゆけ!まちづくり探検隊!!～京都市北区衣笠学区～ —— 1・2P
- まちづくり人リレー —— 3P
- リレーエッセイ まなざし～まちづくりの現場から～ —— 4P
- 永楽荘桜自治会が「住まいのまちなみ賞」を受賞 —— 5P
- まちづくり掲示板 —— 6P
- 大阪北部地震にかかる市内の被害状況と市の対応について —— 7P
- 第26回まちづくりセミナー 防災まちづくりのすすめ —— 7P

(回覧)




それゆけ!

# まちづくり探検隊!!

このコーナーでは、マチカネくんが豊中市を飛び出してまちづくり活動をしているさまざまなまちを探検するよ!

## 京都市北区衣笠学区

今回は、京都市北区衣笠学区を探検するよ。お天気も良くて探検日和ワニー



ここ衣笠学区では、防災まちづくりの取組みを地域と大学が協力して進めているんだって。今日は、自主防災会の三谷会長と立命館大学准教授の豊田先生にまちを案内してもらったよ。

ようこそ衣笠学区に!衣笠学区は東側の北野天満宮などの神社仏閣と西側の立命館大学との間に位置しています。まちは明治以降にできていて京都の中では比較的新しいため、一般的な京都のイメージにある路地が入り組む基盤のまちなみとは少し違った、住宅街となっています。

自主防災会  
会長 三谷 規嘉さん

立命館大学 政策学部  
准教授 豊田 祐輔先生

どうして防災まちづくりの取組みを進めていると思ったの?

確かに!!豊中のまちなみと少し似ているような感じもするワニー

衣笠学区では、これまで長い歴史を見ても、地震や洪水など大災害に見舞われたことがありませんでした。そのため、住民の災害に対する危機意識が低かったため、防災意識を高める必要性を感じ、立命館大学との協働のもと取組みをスタートしました。

地域の防災情報がい!



衣笠学区は比較的  
安全な土地なのかな?

いやいや、マチカネくん。そんなことはないんです。実は、京都市左京区の花折断層を原因とする地震が起こると、衣笠学区でも最大震度6弱が想定されています。

わー!!それは心配だワニー!!!もしもの震災に備えて、防災活動を始めているんだね。

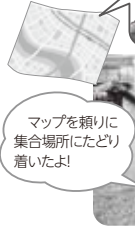
## 大学と連携を行いこのような活動をしています!!

### 救急医療情報キット

緊急搬送時に必要となる既往歴などの医療情報をまとめたキットを配布。本人の説明が難しい場合でも迅速かつ適切な対応を受けることが期待できる。消防にも救急医療情報キットの取組みをしていると情報提供し、連携を図っている。

普段からもしもの時に備えていたら安心だね!

### 防災マップ

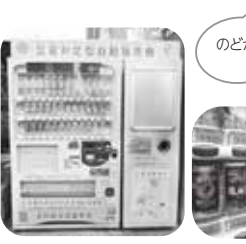


地域のみんなで話し合っ  
て作りまし!

マップを頼りに  
集合場所にたどり  
着いたよ!

町内ごとに手作りの防災マップを作成。実際に住民でまち歩きを行うことで、強み・弱みなどの地域の状況を理解・共有し、避難経路や集合場所の設定などを行っている。

### 災害対応型自動販売機



のどが潤いたワニー~

大地震などの大規模災害時に飲料水を無料で提供できる自動販売機。飲料メーカー協力のもと、避難所である衣笠小学校敷地内に設置。

### 防災訓練

地域の防災力向上のため、防災訓練を実施。



活動は自治会のみなが進めているの?

実は、地区内には自治会組織がないので、社会福祉協議会の一部である自主防災会の有志が活動を行っているんだよ。最近では活動が広まってきたことで、参加してくれる有志も増えてきたね。

地域と大学が連携しているんだね



大学と協働が進めることで、民間の力も活用できます。まさに自動販売機は産官学の成果と言えますね。また、各取組みのスタートなどにあたっては、大学では盛大に式典を行うことになることから、地域のみさんの意識の向上につながることも考えられます。これらが地域にとって大学と連携を行うことの良さではないでしょうか。

活動のはじめは大学側で仕掛けづくりをしてもらっていましたが、最近ではそれらがきっかけとなり地域からも色々なアイデアが浮かんできているんですよ。

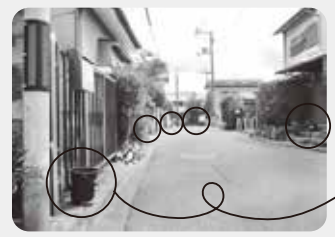


## 地域発意の取組みが広がっています!!

### 初期消火用具の設置



防災マップ作成のまち歩きから、消火施設が少ないことが明らかに。各自宅前に初期消火用のバケツや消火器を設置する取組みが広がっている。



みんなの家の前に置いてあるんだね



### 名簿づくり

震災時に想定される怪我人などの役割を参加者に割り振って、実際の震災を想定した避難シミュレーション訓練を実施。その中で、住民から集合場所に来る人が誰か分からないという声があったことがきっかけとなり、名簿づくりの必要性が提起され、組ごとの名簿を作成。

### 防災ファイルの配布

作成した名簿や、防災マップなどをまとめて管理し、災害発生時など必要なときに使用できるようにクリアファイルに1世帯ごとに配布。



### 防災散歩

地域の人が発生して、避難所までの経路を確認する避難訓練を、季節のいい時期にお花見を兼ねて地域のイベントとして開催。訓練の後はみんなで炊き出しを味わった。



立命館大学も探検したワニー、広がったワニー!



近くに立命館大学があるということで、地域の消防団に大学生が入ってくれていたりもします。地域に若い世代が多くいることはまちに活気も溢れ、地域としてもうれしいですね。

地域のみんなと大学が協力して日ごろから災害に備えていくことで、安心して暮らせるようなまちになっていると思うワニー。

大学にとっては、大学生の社会経験となることでし、地域のみさんにそのように言っていただけることは、うれしい限りです。共に利益を得られるように進めていきたいですね。

これからどんなまちになってほしいと思うワニー?

衣笠学区においても、高齢化は進んでいます。そのような中でも、災害に強いまちとして、まちづくりを進めていくことで、まちの魅力を高め、若い人たちが集まる活気あるまちにしていきたいですね。

お互いにとっていい関係が築けているんだね。

今日もいい探検ができたワニー!



ありがとうございましたワニー。たとえこれまで、大きな災害にあつてなくても、もしもの時に備えてまち全体で日ごろから防災に対して考えていくことが大切なんだね。ぼくもおうちの近くで災害に備えて今日からできることを、まちのみんなで考えてみようと思うワニー。今度、豊田先生がまちづくりセミナー(P.7参照)でまちを強くするための防災まちづくりについて教えてくれるんだよ!みんな聞きに来てね!!



# まちづくり人リレー



このコーナーは、自身の暮らすまちをより良くしたいと奮闘されている  
豊中のまちづくり人を紹介する連載です。

## <豊中ロマンチック街道21世紀の会>

稲見 育大さん(会長) 樽井 勇人さん(副会長) 辻本 浩子さん(事務局長)

お三方は、「育てよう、品格と夢あふれるまちを…」を合言葉に、ロマンチック街道(少路北交差点以北の府道豊中亀岡線市域部分の愛称)の沿道でまちづくり活動を行っている「豊中ロマンチック街道21世紀の会」の役員です。会発足から30年ほど経過し、歴代のリーダーからバトンを受け継ぎ、地域住民とともに沿道を盛り上げるべく活動を進めておられます。



稲見 育大さん 樽井 勇人さん 辻本 浩子さん



Q 「豊中ロマンチック街道21世紀の会」発足について教えてください。

A



発足は平成元年(1989年)になります。当時はこの沿道にお店が建ち始めた頃でした。出店した14人の青年が集まり、「ロマンを持って、まちを元気にしたい。文化の発信基地にしたい。」という想いから、会をスタートさせました。これが「ロマンチック街道」という愛称のルーツです。

活動開始当初に、まちの将来ビジョンを示した「ロマンチック街道及び沿道街づくり計画」を発表し、会のシンボルマークも作成しました。沿道の駐車場や千里川沿いなどで行ったガレージセールは、約3万人来場のビッグイベントだったそうです。また、沿道の景観づくりなどの精力的な活動が評価され、活動開始から4年で知事表彰を受賞しています。その後、長年活動してきましたが、地価上昇などの影響もあってか、近年は個人店主が減り、会員数も減少したため、めだた活動ができない時期もありました。そのような中、5年前に私たちが会の体制を引き継ぎました。

Q 体制が代替わりしながら長年活動してこられました。活動に加わられた経緯や新体制で始動された当時の思いなどを教えてください。

A

飲食店の経営を引き継いだ際に、仕事を通じて地域に育てられていることを改めて実感しました。そこで、地域をもっと盛り上げていきたいと考え、活動に参加しました。



稲見

仕事の関係で元会長から紹介されたことと地元愛から、活動の第一歩を踏み出しました。賛助会員制の廃止をきっかけに正会員となり、幅広い活動に参加しています。



樽井

15年程前から会に参加しています。会が元気がない時期でも、花壇整備などの地道な活動を続けていた結果、まちづくり活動の火を消すことなく、新体制につながられてよかったと思っています。



辻本

Q 取組みの中での一番の成果を教えてください。



一番の成果は、昨年25年ぶりに開催し、約4千人が来場した「ロマチカ祭り」です。地域に貢献できる企画となるよう苦労しました。地域のみならず、気楽に来場してもらえるよう沿道のお店に敷地の一部を開放してもらい、ブースを設置。住民が来店できる一般ブースも設け、商業者と住民がともに楽しめるものになりました。このイベントを通じ、商業者が地域のみさんに自店をアピールできたのと同時に、地域内で多くのつながりを生み出したことは大変よかったと感じています。

Q 今後の活動やこれからの思いを教えてください。

A

当会は、長年活動していますが、約50店ほどある会員間では、まだまだお互いを知らないように感じます。そのため、さまざまな活動を通じて、より一層交流ができるようになればいいと考えています。また、会員以外の方の活動参加も歓迎しています。参加者に継続的に参加してもらえるように、楽しい企画を考えるなど、取り組んでいきたいです。



辻本

今、10年ぶりに沿道イルミネーションを復活するべく準備を進めています。将来的には毎年継続して開催し、沿道一帯でイルミネーションができるよう取り組んでいく予定です。まちづくり活動といえば、時間がかかりしんどいイメージもありますが、楽しみながらやりがいを持って活動を続けたいと思います。



樽井

私たちは、既存の会を引き継いだ立場です。そのため、会の憲章を受け継ぎ、旧会長が「新会長を育てるなど、次世代にきちんとした形でバトンを渡すことが自分の使命だ」と考えています。また、活動を通じて、他団体の会長さんたちと話す機会が増えました。そのつながりを活かしてお互い協力し、まちづくりの輪が広がるといいなと思います。



稲見

# まなざし

～まちづくりの現場から～

このコーナーでは、日々まちを見つめ、地域のみさんと一緒に奮闘しているまちづくりアドバイザーに、現場での出来事や思いをエッセイにつづっていただきます。



の ざき りゅういち  
野崎 隆一

特定非営利活動法人  
神戸まちづくり研究所 理事長

兵庫県を中心に、多くの市町村でまちづくりやルール策定を支援している。また、被災地東日本にて地域復興や住宅再建に取り組み、各地の復興を支援。現在は、熊本県にて復興まちづくり支援を行っている。平成26年(2014年)から豊中市まちづくり委員会会長。

## 復興まちづくりから考える、 防災まちづくり

野崎 隆一

私は、阪神・淡路大震災をきっかけに、まちづくりコンサルタントになりました。その後も、中越、能登、東日本、熊本、西日本と災害が続く中、東日本では5年間、復興まちづくりのお手伝いをし、現在は熊本県の南阿蘇村と益城町で復興に関わっている住民の皆さんを支援しています。ライフラインなどの復旧、住まいの確保、続いて生業や生活の安定というように進められていますが、まちづくりの根底には、二度と同じ被害が起こらないようにという防災の考え方が必ずあります。復興まちづくりでは、早く安定した生活を取り戻さなければなりませんから、スピードが勝負ですが、進め方によっては、個々の利害がぶつかり合うことがあります。阪神・淡路大震災では、マンションの復興方針をめぐる対立し、裁判が起ったケースがいくつもありました。よく話し合い、相手の考えを理解し、意見をまとめる、いわゆる合意形成が重要になります。



平時のまちづくりにおいては、差し迫った感覚は少ないですが、合意形成のプロセスは、基本的に復興まちづくりと同じだと考えられます。まちづくりは民主主義の学校だと言われるのはそのためです。防災に関しても、大きな違いは、目の前に被災体験があるわけではないので、他地区の事例を学んで自分の地域の被災を想定せざるをえないことです。防災まちづくりにおいて、どれだけリアリティのある被災イメージを構築できるかがとても重要です。また、現実には常に想定外のことが起こりますから、今ある地域の組織や担い手が、日常活動の延長上を取り組むことも必要ですが、非日常の祭りなどイベントにおける実行委員会の経験がより役立つと思います。見方を変えれば、防災に真剣に取り組めば取り組むほど、地域コミュニティの弱点が見えてきます。その意味で、地域で防災に取り組むことが重要だと言えます。

## 永楽荘桜自治会が「住まいのまちなみ賞」を受賞

永楽荘桜自治会地区では、平成8年(1996年)に「緑豊かな落ち着いた風格のあるまちなみを守り、育てる」ことを基本目標に掲げ、市内初の景観形成協定が締結されました。その後、景観形成協定の期限が切れることを契機に、景観形成協定に代わるルールを検討し、平成27年(2015年)に地区計画・都市景観形成推進地区(景観計画)・景観形成ガイドラインの3つのルールが策定され、地区の住環境を保全してこられました。

このような、地区の住環境の維持・保全に永らく取り組んできた実績が評価され、平成30年(2018年)7月2日に第13回住まいのまちなみコンクールで「住まいのまちなみ賞」を受賞されました。



永楽荘桜自治会地区の位置図

### 住まいのまちなみ賞とは

国土交通省のまちづくり月間関連行事の住まいのまちなみコンクールでは、地域の方々が積極的に地域の特性を活かし、魅力的な住まいのまちなみを育む活動に実績を上げている住民組織をまちづくりのモデルとして表彰し、支援するものです。

住まいのまちなみ賞 受賞の様子▶



### 永楽荘桜自治会の中心メンバーとして、まちづくりを進めてこられた会長 藤井さん・環境委員長 友國さん・まちなみ副委員長 前中さんに、まちづくり活動についてインタビューを行いました！！

Q1. これまで長年、永楽荘桜自治会において住環境の保全に取り組まれてきたと思いますが、その思いについて教えてください。

A 藤井 地区内の住環境を保全することを第一に考え、平成5年から永らくまちづくり活動を続けてきました。今回の住まいのまちなみ賞の受賞は、これまで取り組んできたまちづくり活動の成果が認められたということで、大変うれしく思っています。現在は、地区計画、都市景観形成推進地区、景観形成ガイドラインの3つの住民発意のルールによって、良好な住環境が守られているので、まちづくりに取り組んできてよかったと感じています。

友國 景観形成協定が策定されてからは、建築確認(建築計画の事前審査)の申請の際に市から当自治会と協議するよう案内をしていただいていたことから、このような珍しい取組みをしている地区だという認識が地区内外に広がっていき、住民のまちづくり活動に対する理解も深まったと思います。



(右から) 藤井会長 友國環境委員長 前中まちなみ副委員長

Q2. 今後の活動や、これからの思いについて教えてください。

A 前中 新しく立ち上げたまちなみ委員会を中心に、自治会のシンボルマークである桜の木を植樹し増やす活動など、これからも住環境保全の活動に力を入れていきます。

藤井 これまで住民発意で取り組んできたまちづくり活動によって、培われた良好な住環境を守るといった意志を継承しながら、若い世代が活躍できる楽しい自治会にしていきたいと思っています。

## 豊中市ブロック塀等撤去補助金

### ブロック塀などの撤去費を補助します

豊中市では、平成30年(2018年)6月18日に発生した地震に伴い、ブロック塀などの撤去費の補助制度を開始しました！

【補助の対象】 道路(私道を含む)に面し、道路からの高さが60cmをこえるブロック塀など\*を撤去する工事

\*コンクリートブロック造、石造・れんが造の組積造など

- 安全性が確認できないブロック塀などを全て撤去する必要があります。
- 1つの敷地に対して、1回限りの申込みとなります。
- 平成30年(2018年)6月18日の地震発生以降で、本補助制度を開始する前に工事着手しているものも適用できる場合があります。

【補助の金額】 ①～③で一番低い金額を補助します。

- ①撤去工事費(見積書など)×4/5
- ②13,000(円/㎡)×面積(㎡)×4/5
- ③20万円



お問合せ

市街地整備課  
TEL: 06-6858-2342

## 豊中市生垣緑化助成金

### 住宅地や事業所用地などの生垣緑化を補助します

生垣は、まちの景観美化や二酸化炭素削減などの効果があり、地震などの災害にも強いいため、安全で安心なまちづくりに貢献できます。豊中市では、生垣をつくらうとする市民や事業者のみなさんに、費用の一部を助成しています。ブロック塀などを撤去後、生垣を設置する際にご利用ください。

【補助の対象】 本市区域内の住宅地、または事業所用地等の民有地につくられる生垣

- 道路(原則幅員4m以上)に面する部分で、外部から眺望できること
- 延長が2m以上であること
- 5年以上保存し、育成管理できること
- 樹木の本数は、1mあたり概ね3本以上で、その高さは1m以上(1m未満の低木も含めて植栽し、連続した植樹帯を形成する場合はこのかぎりでない)であること

【補助の金額】 生垣の設置に要する費用×4/5(最高限度額10万円)



お問合せ

公園みどり推進課  
TEL: 06-6843-4141

## 豊中市ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)普及促進補助金

### ゼロエネルギー住宅の新築費用を補助します

豊中市では、住まいの断熱や省エネ性能の向上とともに、再生可能エネルギーの導入などにより、年間で消費するエネルギー量がおおむねゼロ以下となる住宅(ZEH)の新築費用について、国の補助金確定通知を受けた人を対象に補助しています。

【補助の金額】 20万円(6組 先着順)

年間で消費する住宅のエネルギー量が正味で概ねゼロ以下



出典: 経済産業省資源エネルギー庁HP



お問合せ

環境政策課  
TEL: 06-6858-2106



# 大阪北部地震にかかると市内の被害状況と市の対応について

平成30年(2018年)6月18日の午前7時58分に発生した大阪北部地震では、豊中市内において震度5強を観測し、人的・建物の被害(9月30日時点・下記参照)が発生したほか、停電や水道の漏水、公共交通機関の運行停止などが起こり、市民生活・商業活動などにおいて支障をきたしました。

市では、同日8時には災害対策本部を設置し、被害状況の確認や避難所開設などの初期対応を行いました。その後は家屋の被害認定調査、屋根などの破損により応急対応が必要な方へのブルーシートの配布や住宅の応急修理に関する支援、各種相談を受け付ける窓口の設置など、被災された方への支援を行っています。

また、市立の小中学校やこども園におけるコンクリートブロック塀の緊急点検を行い、緊急の対応が必要な17施設については、フェンスへの取替工事を順次行っています。さらに、通学路に面しているコンクリートブロック塀を緊急点検し、その所有者等へ安全対策を働きかけました。なお、個人や事業者が所有するコンクリートブロック塀に関しては、今回の地震の発生に伴い、撤去に関する市独自の補助制度(6ページ参照)を新たに創設しました。

## 被害状況 (9月30日時点)

### 人的被害

重症	1人
中等症	14人
軽症	24人
合計	39人

### 建物被害

全壊	3件
大規模半壊	1件
半壊	30件
一部損壊	2,424件
合計	2,458件

## フェンスへの取替工事

【取替え前】



【取替え後】



今後とも民間で所有されるコンクリートブロック塀については、所有者による点検を行っていただき、安全性の確認をお願いいたします。点検方法については、市のホームページ(トップページの「まちづくり・環境」→「建築・開発」→「所有のブロック塀を点検してください」)をご確認ください。

## 防災まちづくりのすすめ

～大阪北部地震をふまえ 次の地震にそなえる～

## INFORMATION 第26回まちづくりセミナー

(1,2Pに関連記事掲載)

講師：立命館大学 政策科学部 准教授 とよだ ゆうすけ 豊田 祐輔さん

開催日 平成30年(2018年)11月29日(木)

時間 午後2時30分～4時30分(開場 午後2時)

場所 豊中市立文化芸術センター 多目的室  
豊中市曾根東町3-7-2 ※阪急宝塚線「曾根駅」から東へ約300m

入場無料 手話通訳あり 保育あり(有料、要事前申込み)

主催・申込み・問合せ 豊中市役所 都市計画課 地区まちづくり係

TEL:06-6858-2197 FAX:06-6854-9534

メール: machi@city.toyonaka.osaka.jp

座席数に限りがございますので、できる限り事前に電話・FAX・メールまたは市ホームページで、名前・電話番号・所属団体・保育の希望をご記入し、お申し込みください。



ホームページはこちら

いつ、どこで起こるか  
分からない地震に備え、  
地域ぐるみでの取組みを  
始めてみませんか!